

九州支部だより

昭和 34 年度日本気象学会九州支部講演会

九州支部講演会は 5 月 27, 28 日の両日福岡県筑紫郡筑紫野町の県教職員組合保養所紫泉荘で行われた。参会者約 50 名, 気象研究所から地球電磁気研究部長石井千尋氏を迎えて, 上空の放射能について講演をお願いした。

順	題	目	所 属	発 表 者
1	駆動用ゼンマイのトルクについて		福 岡	稲 垣 秀 昭
2	高気圧圏内の熱収支		〃	前 田 広
3	台風の転向について		鹿児島	長 田 英 二
4	梅雨期の干ばつについて		〃	井 手 利 四 郎
5	煙じん霧害の調査		福 岡	金 子 義 春
6	塩害霧害時の気象		〃	山 田 三 郎
7	霧の予報と大気の垂直構造との関係		〃	山 田 三 郎
8	周防灘気塊について		大 分	笠 村 幸 男
9	アノマリーによる高低気圧の発達予想について		下 関	黒 木 義 秋
10	鹿児島における雨量予報の基礎調査 (第 2 報)		鹿児島	小 川 善 朗
11	台風に関する統計的調査 (第 2 報)		宮 崎	三 好 利 奄
12	降雨確率図からみた福岡県の干ばつ		福 岡	服 部 徳 一
13	夏季の小雨についての統計		〃	今 山 正 春
			〃	小 島 隆 義
14	メインスケールの気圧振動について		〃	牛 島 敏 光
15	[特別講演] 上空の放射能 (人工と天然とを含めて)		研究所	石 井 千 尋
16	雲仙温泉の温度および湧出量と降水量との関係		温泉岳	田 畑 七 郎
17	梅雨の天候型と広域相関		福 岡	竹 永 一 雄
18	寒気の変遷現象と延長予報について		〃	植 木 九 州 男
19	季節変動と長波について		〃	矢 花 和 一
20	対馬海峡の風速と波		〃	浦 川 武 雄
21	白川の洪水予報について (第 3 報)		熊 本	山 鹿 延
22	オホーツク海高気圧と水温について		長 崎	木 下 正 時
23	敵原における降雪予想の調査		敵 原	藤 元 圃 夫
24	オゾン全量と高層気象との関係について		鹿児島	横 山 充
25	大野川筑後川水系の降水量の観測点の測定		大 分	中 橋 実 郎
26	鹿児島における放射能測定結果について		鹿児島	押 切 貢
27	桜島の雑微動について		〃	利 光 貞 夫
28	桜島の A 型地震源について		〃	東 谷 幸 男
29	桜島の空振波伝播速度について		〃	伊 地 知 勝 三 郎
30	最近の鹿児島の異常現象について		〃	安 井 豊

(前頁下から続く) するの複数にするのか迷うものが随分ある。たとえば握手する時の hand は片方の人だけ考えれば単数だが、握っているのであるから振るときは 2 つの手を振っているわけでもある。どちらでも間違い

ではないのかも知れないが、複数の方が多し。すなわち He shook hands with me. である。文法ではこれを「相互複数」という。単数にすると一人芝居をしているように感ずる。